

RYOBI®

エンジン芝刈機

ELM-300

取扱説明書

このたびは、リョービ芝刈機をお求めいただきまして、
まことにありがとうございます。

- この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと大切に保管いただき、わからないときは、再度
お読みください。

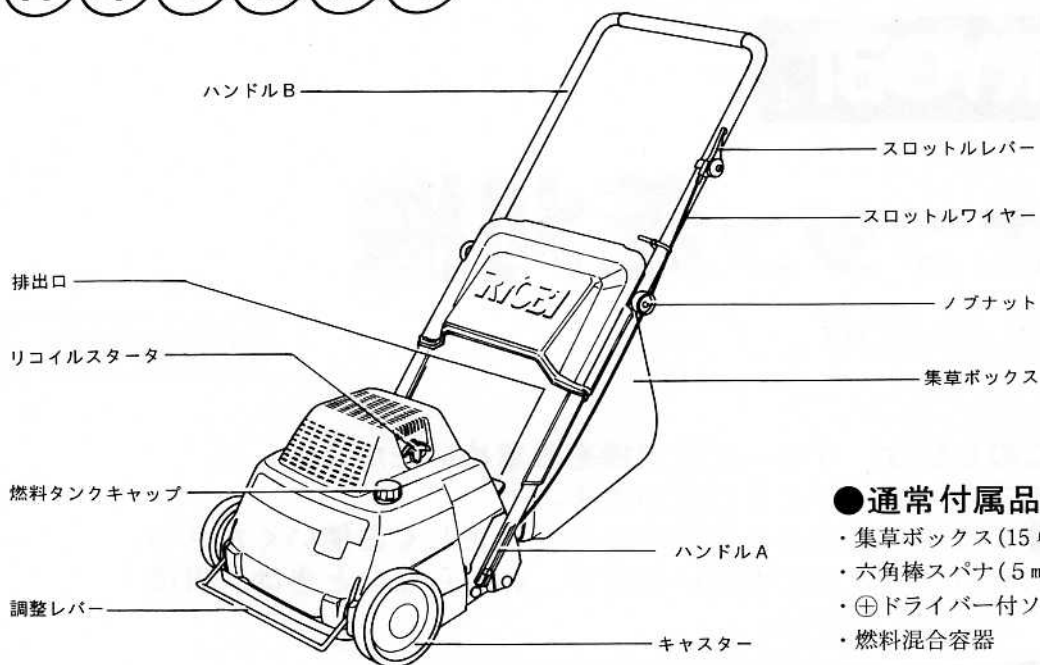


- 高出力28.5cc/ハイパワーエンジン。
- 5段刈込み高さワンタッチ調整。
- 刈込幅、ワイド300mm。



●改良のため、お断りなく仕様、外観を変更することがあります。

各部のなまえ



●通常付属品

- ・集草ボックス (15ℓ)
- ・六角棒スパナ (5mm)
- ・⊕ドライバー付ソケット
- ・燃料混合容器

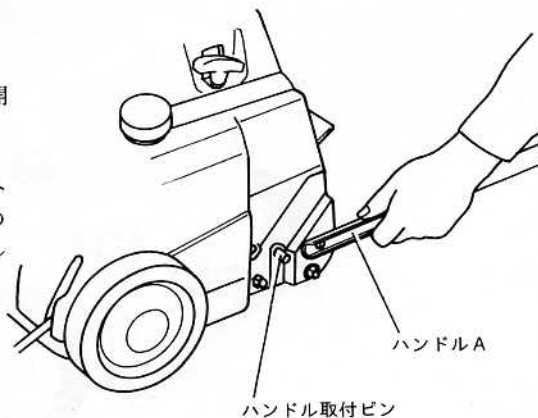
型 式	E L M-300	
寸 法	奥行×幅×高さ	400×480×315mm (ハンドルを除く)
フ レーム	アルミダイカスト	
重 さ	15kg	
エ ン ジ ン	型 式	空冷2サイクルガソリンエンジン
	排 気 量	28.5cc
	気 化 器	ダイヤフラム式
	点 火 方 式	電子点火方式
	スパークプラグ	DJ8J (チャンピオンプラグ)
	始動・動力伝達	リコイルスタータ・自動遠心クラッチ

燃 料	混 合 比	($\frac{20}{1}$ ~ $\frac{25}{1}$) : (2サイクル専用オイル)
	タンク容量	1.0ℓ (連続運転・約100分)
本 体 部	刈 刃 方 式	リール式・3枚刃
	刈 込 幅	300mm
	刈 込 能 力	約550m ² / (時間)
	刈 刃 回 転 数	最高2,700 r.p.m. (エンジン・8,100 r.p.m.)
	刈 込 高 さ	5段調整 (8・12・18・24・30mm)
走 行 方 法		手押式

組み立て

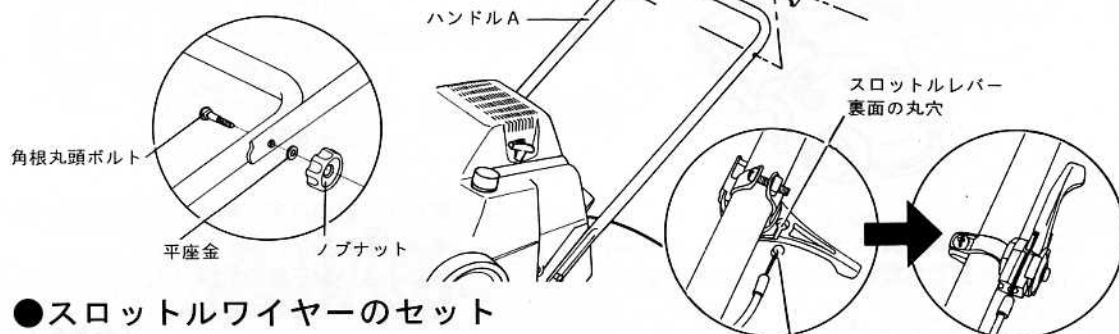
●ハンドルの組み立て

- ・本体下部にあるハンドル取付けピンにハンドルAのアームを開いて組み付けます。ハンドル取付けピン後部のフレームのふくらみを利用します。
- ・ふくらみの上へハンドルAの一方のアーム端を合わせ、つぎに反対側のふくらみの上へ残る一方のアーム端を開き乗せます。
- ・ハンドルAのアーム端の穴をハンドル取付けピンの上へ移動させます。穴位置がずれないように、ハンドルAの後部を持ち上げ、ふくらみからはずすと簡単にハンドルAは本体に取付けられます。



- ・ハンドルAの後部にハンドルBのアーム端を合わせます。
このとき、取付けボルト用の穴位置を合わせてください。

- ・内側より取付けボルトを穴の型に合わせ挿入、
外側より平座金、ノブナットの順に
締付けます。

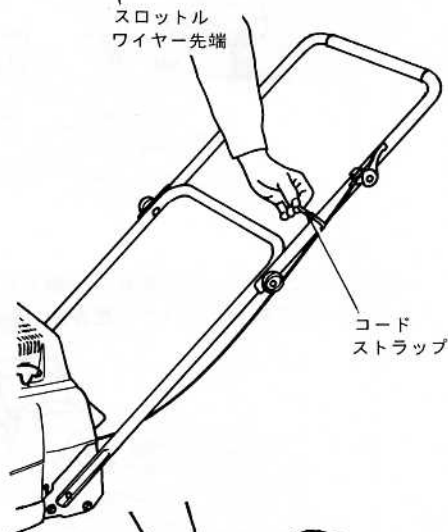


●スロットルワイヤーのセット

- ・本体後部より出ているスロットルワイヤーをスロットルレバーにセットします。
- ・スロットルレバー裏面の丸穴にスロットルワイヤー先端を入れ、溝にスロットルワイヤーを取めます。
- ・スロットルケーブルを引き、スロットルケーブル先端の金具がスロットルレバーの付け根の溝(穴)に収まるようにします。

＊スロットルケーブルを引きすぎないように注意して
収めてください。

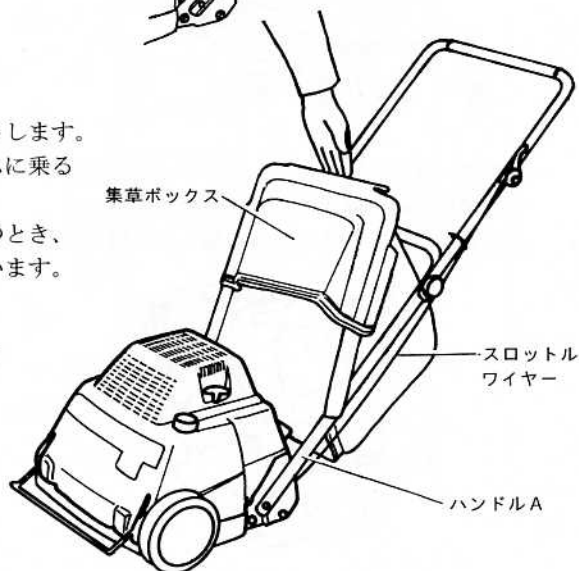
- ・スロットルワイヤーがスロットルレバーにセットできたら、コードストラップでスロットルワイヤーをハンドルBのアームに添わせ締付け固定します。



●集草ボックスのセット

- ・集草ボックスをハンドルAのアームを使いセットします。
集草ボックスの後フックがハンドルAの横アームに乗るようにします。
両サイドはハンドルAのアームで受けます。このとき、
本体排出口と集草ボックスとの間が若干開いています。

＊集草ボックスをセットしたとき、スロットルワイヤーを
はさみ込まないように確実にセットしてください。



取扱い上のご注意

- ・芝を刈るとき以外は必ずエンジンを停止しておいてください。
特に移動、点検、刃物調整などはエンジンが完全に停止していることを確認してから行ってください。



- ・芝生上の小石や異物（小枝、ガラス、金属類）は、あらかじめ取り除いてから使用してください。



- ・使用中はとび石、縁石などに回転刃をあてたり強い衝撃を与えないでください。



- ・使用中、異常を感じたり、刃物の回転が止まった場合は必ず停止スイッチを押してエンジンを完全に停止させてから点検してください。



- ・使用中は本体を横倒しにしないでください。傾斜地では特に注意してください。また、本体の上には乗らないでください。



- ・使用中は排出口や可動部には絶対に手、ゆび、足などを入れないでください。特に小さいお子様は危険です。さわらせたり、近づけたりしないでください。



- ・雨中への放置や、本体の水洗い、散水直後の使用はしないでください。



- ・芝刈りのときは、必ず集草ボックスを本体に取り付けて使用してください。刈り取った芝クズなどが飛び散るのを防ぐためです。

ご使用方法

※エンジンの説明は7頁以降をご覧ください。

・エンジンをスタートさせ、暖気運転を行なった後、刈込みを開始します。

・刈込みをする前にスロットルレバーを操作し、回転刃が回転することを確認してください。

★固定刃と回転刃のすり合わせが適切かどうかを確認してください。

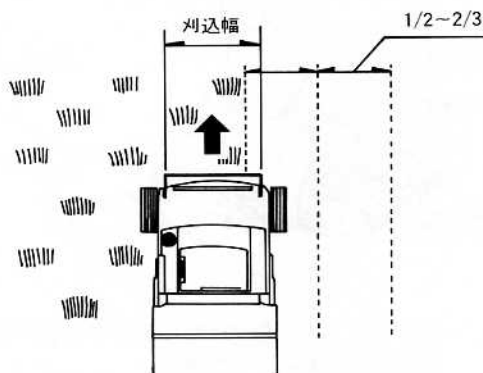
但し、手をふれる場合は必ずエンジンを一度完全に停止させてから行なってください。



・これから刈ろうとしている芝生面に小石や異物（小枝、ガラス、金属類）があるかどうか確認してください。ある場合は必ず事前に取り除いてください。

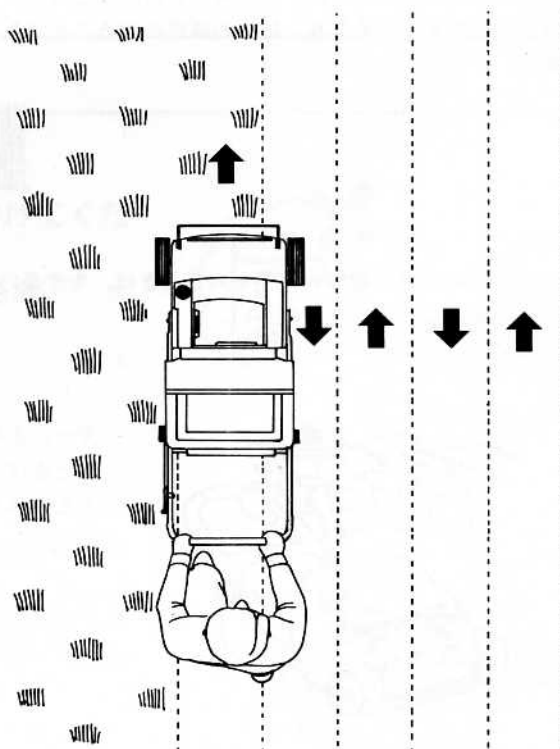
・刈込幅全部で刈り込むのではなく、常に刈込幅の1/2～2/3で刈り、つぎに刈り込む時に1/2～1/3が重なるようにして刈れば、刈り残しの無い均一で、きれいな刈込みができます。

また、前進のみで刈込みができるようにします。

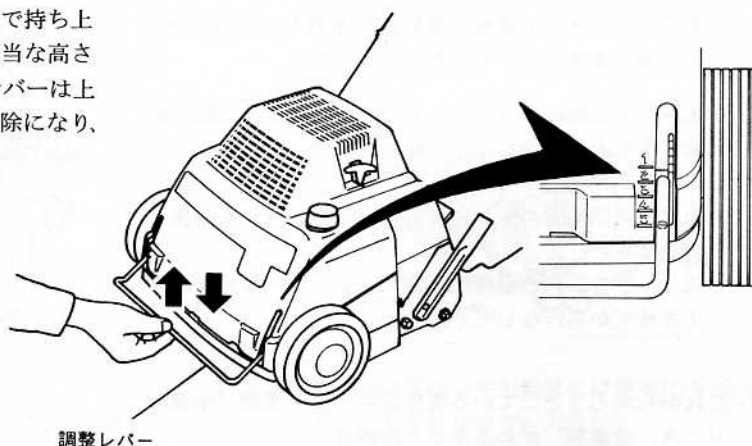


・刈り込みの速さ（押し歩く速さ）は芝生の繁茂に合わせてください。

通常の歩く速度の1/2ぐらいでゆっくりと動かすと、きれいに仕上がります。湿った芝はよりゆっくりと刈ってください。（ぬれた芝は乾くまで待ってから作業をしてください。）



- ・刈り込み高さは、芝生の繁茂、長さの度合いに合わせて調整してください。一度、調整レバーを一番上まで持ち上げてから下へ降ろし、順次適当な高さまで上げてください。(調整レバーは上への一方通行で、一番上で解除になり、下へ下げられる構造です。)



8ミリから30ミリまで5段階に調整できます。

NO	1	2	3	4	5
刈込高さ (mm)	30	24	18	12	8

※刈込高さの数値はおおよその高さです。

- ・伸びすぎている芝は一度に短くしないで、日をおいて順次短く刈ってください。最初から短く刈ることは、芝刈機の負担になるばかりではなく芝生をいためたり、枯れの原因になることがあります。



注)

- ・やむを得ず砂の多い場所の芝生を刈るときは、やや長い目に芝を刈るようにしてください。



- ・万一、小石や異物(小枝、ガラス、金属類)がはさまったときは、直にエンジンを停止させ、完全に止まったことを確認してから、取り除いてください。

刃のすり合わせ調整

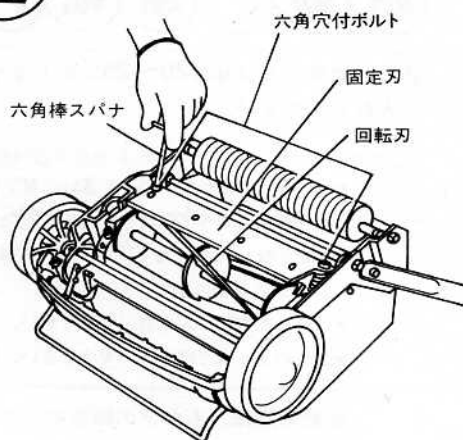
●ケガを防止するため手袋をつけてください。

切れ味をいつも良い状態としておくため固定刃と回転刃のすり合わせ調整と点検を行なってください。

- ・固定刃と回転刃とのすり合わせ調整は、本機を裏返し、固定刃のベース左右端にある六角穴付ボルトを六角棒スパナで廻して調整します。

右に廻すとすり合わせは強くなり、左に廻すとすり合わせは弱くなります。

左右均等に調整してください。

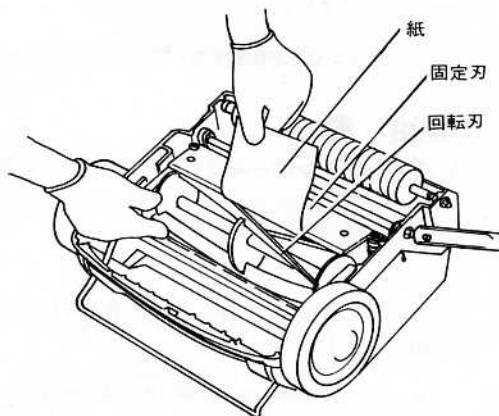


- ・最適の状態は固定刃と回転刃の間にハガキと同じくらいの厚さの紙をはさみ、回転刃を手で軽く廻しすり切れるくらいを目安とします。

注) 回転刃で手を切らないよう充分注意してください。

- ・すり合わせが強すぎると刃の寿命が短くなります。また、左右が均等でないと刃が片べりする原因となります。

- ・調整後は必ず刃先に油を塗って保護してください。



お手入れ

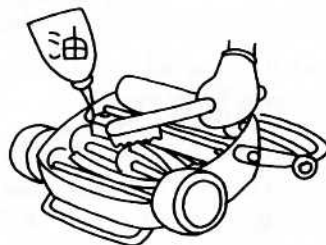
●ケガを防止するため手袋をつけてください。

- ・付着した刈りくずやドロは、乾いた布でふき取ってください。

ガソリン、シンナー、ベンジンなどは使わないでください。



- ・刃先はブラシなどで汚れを落とし、軽く油を塗り付けておいてください。
- ・保管の際は、直射日光があたったり、雨にぬれたりしない、湿気の少ないところで子供の手が届かない、安定したところへ置いてください。



始動、運転、停止

正しい比率（ガソリン20～25に対し2サイクル専用オイル1）に混合された新しい燃料を燃料タンクに入れてください。

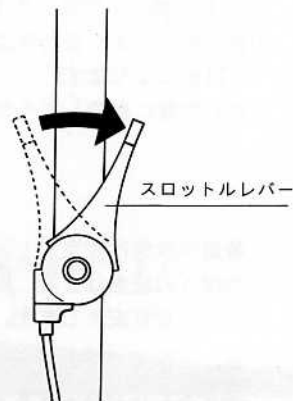
*古い燃料は使わないでください。ガソリンの蒸発によりオイルとの混合比が変わっていたり、化学変化などで、キャブレタ内で正しく気化しないだけでなく、エンジン内部を汚し、不調や故障の原因となることがあります。

*こぼれた燃料はふき取ってください。

*芝生の上へはこぼさないでください。芝枯れの原因になります。

始動の際は、石などの障害物の無いところへ本機を置いてください。

*エンジンが始動すると同時に回転刃も回転を始めます。



● 始 動

1. スロットルレバーを1/3～1/2くらい開いてください。

2. エンジンが冷えている時は、チョークレバーを全閉の位置（閉）にしてください。

*エンジンが暖まっている時（停止後、15分くらいの内）はチョークレバーの操作は不要です。

3. 始動ポンプを数回押して燃料を送ります。

*チョークレバー同様エンジンが暖まっている時（停止後、15分くらいの内）は、始動ポンプの操作は不要です。

4. リコイルスタータ（ロープ）を初爆音（最初の爆発音）が聞こえるまで数回、素早く引いてください。

*リコイルスタータ（ロープ）の全体の長さを確認し、全長の8割くらいの長さを使い、素早く引くようにしてください。

全部を引いてかけますと、引きちぎる恐れがあります。

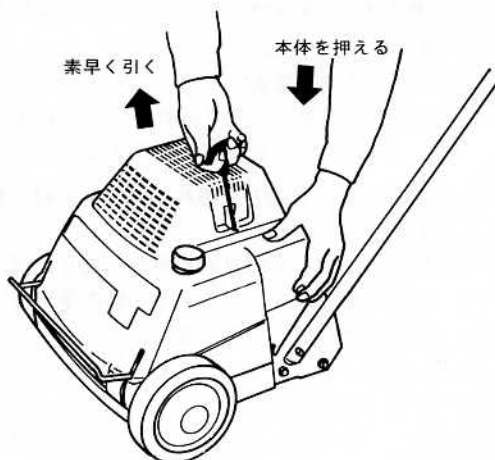
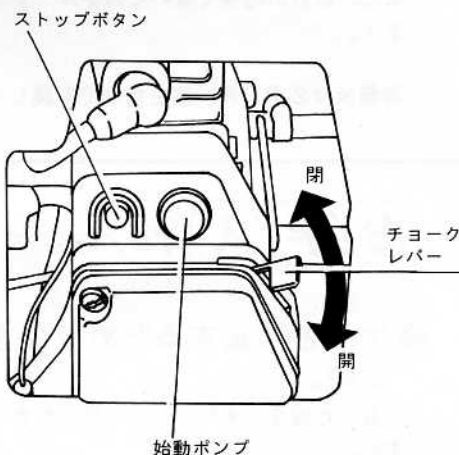
*初爆音を聞きのがさないよう、注意してください。また、初爆音があっても、そのままエンジンがかかりません。

5. チョークレバーを全開の位置に戻し、再びリコイルスタータを素早く引き、エンジンを始動してください。

*始動しない場合は「2. チョークレバーを全閉」の項に戻り、操作を繰り返してください。

6. 始動したら30秒くらいはそのまま暖気運転をしてください。

その後、スロットルレバーを戻しアイドリング状態にします。



ご注意

●吸い込み過ぎについて

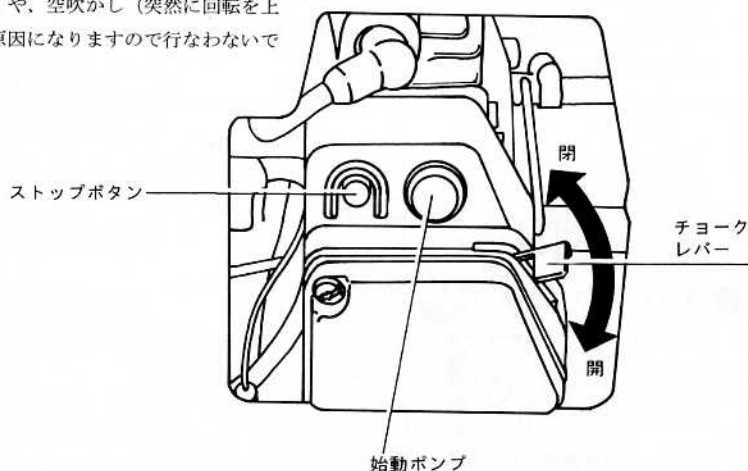
- ・初爆音を聞き逃がし、チョークレバーを全閉でリコイルスタータを何度も引いたときは、チョークレバーを全開にし、スロットルレバーをいっばいに開いて、リコイルスタータを素早く数回引いてください。
- ・その場合、初爆音を聞き逃がしてからリコイルスタータを引いた回数、あるいはその回数の2倍近くの回数を引かないと始動しません。
- ・燃料の吸い込み過ぎは回復が大変ですから充分注意してください。
- ・*エンジンが始動し、暖気運転をする間は、回転刃が同時に回り始めます。ご注意ください。

●運 転

- 1.アイドリング状態からスロットルレバーを除々に開き、エンジン回転を上げ、全開にしてから、芝刈り作業に入ります。

*エンジンの最高回転は、回転刃の回転数に合わせ設定してあります。

芝刈り作業中はエンジン回転を全開（最高回転）となるよう、スロットルレバーを全開にしてください。但し、芝刈りをしない状態での空回転（中速以上の回転）や、空吹き（突然に回転を上げること）は過回転から故障の原因になりますので行なわないでください。



●停 止

- 1.スロットルレバーを戻し、低速（アイドリング状態）で冷却運転をしばらくつづけてから停止スイッチ（ストップボタン）を押してエンジンを停止します。停止スイッチはエンジンが完全に停止するまで押しつづけてください。

ご注意

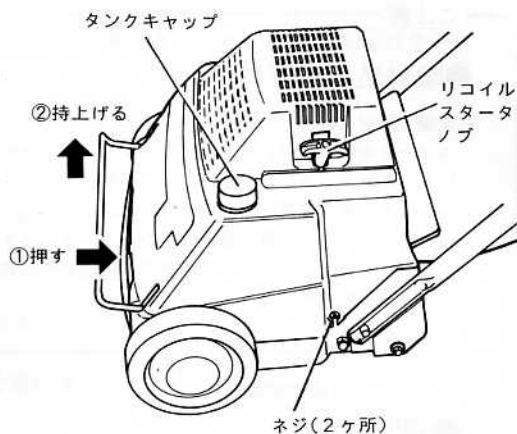
- ・異常を感じたときは、直に停止スイッチを押して停止させてください。止まったことを確認してから、異常個所の点検をしてください。
- また、スロットルレバーは戻しておいてください。



点検と整備

●カバーの脱着

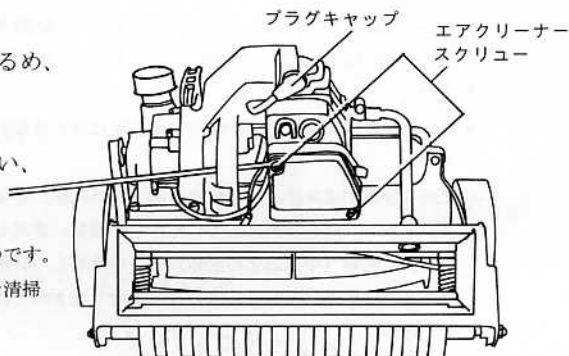
- ・カバー両側面下部にあるネジをはずし、タンクキャップもはずします。
- ・カバーの前面下をやや内側へ押し付けながら上へあげ、リコイルスタータのノブをタテ位置にして、カバーの中へ入れます。
- ・そのままカバー全体を上へ持ちあげ、はずします。



●エアクリナーの清掃

- ・エアクリナースクリーン2ヶ所を⊖ドライバーでゆるめ、エアクリナーを取りはずしてください。
- ・エレメントの汚れを点検します。
軽くゴミを払い、汚れがひどいときはガソリンで洗い、乾いてから元の状態にセットしてください。

*エアクリナー 外観の汚れ以上にエレメントは汚れやすいものです。エンジンの調子を最良に保つため、使用の都度エレメントを清掃するよう心掛けてください。



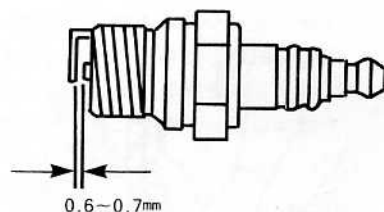
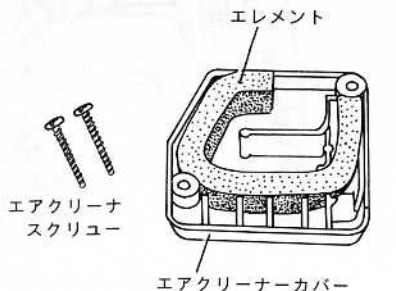
●スパークプラグ

- ・スパークプラグのプラグキャップをはずしたのち付属の⊕ドライバー付ソケットを使い、スパークプラグをゆるめはずします。

*ソケットは確実に奥まで入れてから廻してください。

- ・スパークプラグの適正な電極間隔は0.6~0.7mmです。常に適正な間隔を保ち、カーボンや油などによる汚れに注意して清掃の上ご使用ください。

*スパークプラグは確実にエンジンに取付けてください。
同様プラグキャップも奥まで確実に入れて固定してください。
取付けや締付けがゆるいと性能を発揮できないばかりか、エンジン始動ができないこともあります。



ご注意

- ・キャブレタ（気化器）は工場出荷の際調整してあります。むやみにふれられますとエンジン不調の原因となりますのでふれないでください。万一調子が悪いときはお買い求めの販売店にご相談ください。

●保 管

- ・タンクキャップをはずし、タンク内に残った燃料を出して始動ポンプも数回押して内部に残った燃料も出してください。
- ・エンジンを始動させ自然にエンジンが停止するのを待ちます。(キャブレタ内に残った燃料を空にするためです。)
- ・エアクリーナーを清掃すると同時に、各部の汚れも取り除いてください。
- ・刃部への注油をしたのち余分な油はふき取ってください。
- ・エンジンが充分冷えていることを確認してから、直射日光のあたらない、湿気の少ない冷暗所の安定したところで保管してください。(ホコリなどがかからないようにカバーなどをしてください。)

エンジンの扱い

●燃料の調合

- ・ガソリンと2サイクル専用オイルをまぜた混合燃料です。
ガソリン20~25に対し2サイクル専用オイル1
- ・付属の混合容器にて必要に応じ燃料を作ってください。➡
①の線までガソリンを入れた後②の線にくるまで2サイクルエンジンオイルを入れて下さい。
- ・指定された2サイクル専用オイル、混合比以外の燃料はエンジン不調の原因となりますので使用してはいけません。
- ・4サイクル用のオイルを誤って使用されますとエンジン焼けの原因となります。
必ず指定された2サイクル専用オイルを比率に合わせ正しく混合し使用して下さい。

ご注意

- ・購入後2~3ヶ月以上経過した古い燃料及び夏季等、高温下ではガソリンの蒸発から混合比が変わったりしてエンジン不調の原因となります。新しい燃料を使用するよう心掛けると共に1日に使用する量に見合った量の混合燃料を用意するようにして下さい。



ガソリンとオイルの混合割合表

混合比	ガソリン(ℓ)	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
20:1	オイル(cc)	50	100	150	200	250
25:1	オイル(cc)	40	80	120	160	200

- ・1日の使用が終了したら燃料タンクのキャップを開け中の燃料を空にして下さい。
次にエンジンを始動し、低速で運転して下さい。
内部に残っている燃料が無くなると自然にエンジンは停止します。
長時間使用しないで保存される場合は必ず上記操作を行って下さい。

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上
ご不明の点があった場合には、お買い求め
の販売店または、全国各地のリョービ電動
工具販売店、リョービ販売各営業所にお問
い合わせください。

発売元  **リョービ販売** 株式
RYOBI 会社

 **リョービ** 株式
RYOBI 会社